

教えて発達障害のこと

親と子が前向きに生きていくために

発達障害について、従来の医学的モデルによる考えではなく、何が生活の障壁になっているのか、何が本人にとって不安や恐れや怒りになるのかという考え方も必要です。げんきでも、本人の立場に立った支援を心がけています。

このシリーズでは、本人の立場から社会での生活をとりえ、安心して生活していくための支援のあり方について考えていきたいと思っています。

(げんきスタッフによる座談会から再構成しました。)
困った行動にみえても、当人には必ずそうする理由があります。周囲が「これもありかな」と受け入れることで、みんながより生きやすい社会になっていくはずですよ。

Aさん(母親) 子どもがお店に並んでいる商品が大好きで、触りたがりその場を離れませんが、本人はお店の人が困るということをつきつけないので、「お店の物は触らないで見るだけにしよう。」と伝えていますが、ルールの中であれば興味のあること、好きなことをするのはいいのかなとも思います。

—お母さん自身も葛藤があるんですね。

S(支援者) 特定のお店で事前に許可をもらい、並んでいる商品を好きなだけ見せてもらっている方もいます。その経験が活かされ、大人になり陳列の仕事についた方もいます。

T(支援者) 子どもの立場に立って、子どもが何に気になるのか、何でそうしないではいけないのか、という所に寄り添うことが大切ですよ。子どものすることに付き合ひながら「ここ

が終わったからおしまいね。」など声をかける。親子でそんなやり取りをしていると周りの人から見ても、お母さんが一生懸命子育てしていることが伝わるのかもしれない。それで、周りの人の理解を得られる良い機会になるのだと思います。

—親子でのやり取りを通して、親子関係が変わってきたと思うことはありますか？

Bさん(父親) うちの子は、昔は食器を持って行くと、その声掛けに怒って食器を投げた大変でした。でも、親として食器の片付けはしてほしいと長い間、何度も何度も同じように伝え、今は片付けてくれるようになりました。

S お子さんには、お父さんが付いて行って「お皿を流しまで持ってきて」「食器を持って流しまで歩いていこう。」と具体的に伝えるのが分かり易いと思います。長い間の親子関係でお父さんの言う事に対して上手に答えるようになったんですね。そういう関係は本当に素晴らしいです。

T 自閉症や発達障害の方は百年間の成長というか、ゆっくり成長していいんだと見守ることが大切です。子育てのまっ最中には保護者の方自身、余裕が無く、子どもの目線に立てないこともあります。周りの人たちがそんな保護者の気持ちに寄り添い、見守れる環境になれば子育ても楽しくなりますね。

世田谷区発達障害相談・療育センター

開所日時

月～土曜日(祝日及び年末年始を除く)
午前9時～午後6時

利用方法

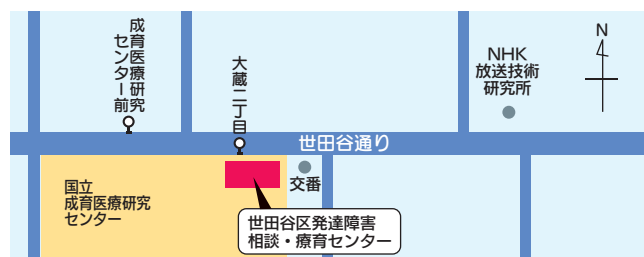
利用は予約制です。利用を希望される方は、直接『世田谷区発達障害相談・療育センター“げんき”』へお電話にてお申し込みください。

〒157-0074 世田谷区大蔵 2-10-18
大蔵二丁目複合型子ども支援センター 2・3 階
TEL 03-5727-2235 (代表)
03-5727-2236 (相談専用)
FAX 03-5727-2238
URL <http://www.ryo-iku.jp>

編集後記

「Gプレスを見て」とセンターにお問い合わせくださることも多くなり、そのような皆様の声に励まされています。世田谷区で長年、自閉症を中心とする発達障害の人たちの支援に携わってきた法人(社会福祉法人嬉泉)の本人の立場にあった支援の経験を誌面に活かして行きたいと考えています。

アクセス



「成育医療研究センター前」「大蔵二丁目」バス停下車すぐ

- 東急バス・小田急バス
渋 24 成城学園前駅南口 ↔ 渋谷駅
- 東急バス
都立 01 成城学園前駅 ↔ 都立大学駅北口
等 12 成城学園前駅 ↔ 等々力操車場
用 06 成城学園前駅 ↔ 用賀駅
- 小田急バス
渋 26 調布駅南口 ↔ 渋谷駅
- 東急コーチ
玉 31:32 二子玉川駅 ↔ 成育医療研究センター前

※駐車場はありません。

業務受託

社会福祉法人 嬉泉

〒156-0055 世田谷区船橋 1-30-9
TEL 03-3426-2323 FAX 03-3706-7242
URL <http://www.kisenfukushi.com>